



昭和の音は 機織りの音

●日本古来のからむし織を守りつづける人々。

昭和村で、からむし織のため
の苧麻の栽培が行われるよう
になったのは中世。六百有余年
の歴史を誇り、現在では本州
唯一の生産地であり、その技
術は貴重な日本の文化遺産と
もいえます。からむしは近世
に入ってから生産が定着し、
雪深い村にとっては大切な
換金作物として栽培されて
きました。

明治二十八年にこの仕事に
たずさわってきた夫妻がから
むしの栽培と加工を伝授する
ためにロシアへ招かれたほど
で、その技術がいかに高く
評価されていたかが伺える
エピソードです。

第一次大戦後の工業の近代
化による養蚕の隆盛や第二
次大戦の戦中・戦後の食糧
難による転作などで栽培は
減少の一途をたどることに
なりましたが、伝統を守り
抜きたいという気持ちから、
昭和四十六年に農協で「から
むし生産部会」を設け、から
むしの織物としての良さを
各方面に広く知らせていく
ことで注目をあびるよう
になりました。

平成に入ってからはその
地道な活動と、伝承技術が
評価され、織り・生産のい
ずれもが県の重要無形文化
財指定と選定保存技術に
認定されました。

平成三年、昭和村からむ
し生産技術保存協会が保持
団体として、「からむし生
産・苧引き」が国の選定保
存技術に認定され、『から
むし織の里』として全国に
知れ渡るようになったので
す。